

### お富士さん山開き！

- 江古田富士…茅原浅間神社（国指定重要有形民俗文化財）
- 長崎富士…富士浅間神社（国指定重要有形民族文化財）
- 池袋富士…氷川神社、夏越の祓え、茅の輪くぐり
- 十条富士…富士神社、縁日はすごい賑わい
- 田端富士…田端八幡神社、隣の赤紙仁王がおもしろい

7月1日は富士山の山開き。今年は雪が多く、本物の富士山はこの日に山開きができそうにもないとのことですが、東京のミニ富士さんは例年通り山開きが行われます。本日行く江古田、長崎、池袋のお富士さんはふだん扉が閉ざされていますが、この日だけは登ることができます。（長崎富士はたぶんダメ）1年に1回の貴重な日なので、がんばってたくさんお富士さんをまわってみましょう。



みわ塾 講座 三輪主彦（みわかずひこ）

〒173-0023 板橋区大山町 33-6 090-9827-8340

ホームページ <http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/>

### ■江古田（えごた？ えこだ？）

西武池袋線の江古田周辺には日大芸術学部、武蔵大学、武蔵野音楽大学などおしゃれな大学が集まっている。北口の改札口は小さいが大学生達が多く利用する。階段をおりた目の前には、2001年に道路拡張工事に伴って石垣が新しくなった浅間神社がある。「新編武蔵風土記稿」には、富士浅間社と記載されているが、通称は茅原浅間神社とよばれた。昔は一面の茅原だったからという。現在は門柱に浅間神社と書かれている。



ところで、西武線の江古田は「えこだ」であるが、最近できた大江戸線の新江古田は「えごた」と読む。どっちが本当なのか地元の人に聞いてもよく分からない。今のところ中野区側はえごた、練馬区側はえこだとすみ分けているようだ。わが奥さんの説によれば、昔エゴの木があったからだという。確かに武蔵野にはエゴの木はたくさんある。なんとなく本当のような気がするが、「新編武蔵風土記稿」には「えこた」と濁らないふりがなが振ってある。ある説によれば荏胡麻ではないかという。横浜には荏子田という場所がある。こっちは荏胡麻らしいが、同じようにえごたと読むそうだ。地名の読みはなかなか難しい。

### ■江古田富士

上の写真は江古田駅のすぐ前にある浅間神社入り口で、鳥居の奥に拝殿があり、その奥にお富士さんがある。高さ8メートル、直径30メートルだから、都内の富士塚としてはもっとも大きいものの一つである。昔の姿をよく残しているということで、国指定の重要有形文化財になっている。重文の富士塚は都内には3カ所ある。ちなみにこの他は、後で行く「長崎富士」、明日行く入谷にある小野照崎神社の「下谷坂本富士」である。

この富士塚を作ったのは地元の小竹丸祓講で、その名をかけた石碑が残されている。現在この講は消滅しているようで山開きの行事は浅間神社の宮司さんが執り行っている。浅間神社の鳥居をくぐって登り始めるといくつかの石碑が出てくる。その中に丸祓講大願成就、大先達政行・篠喜太郎と書いた碑がある。篠一族は昔の豪農で、現在も板橋練馬の名家のようだ。大願成就というのは先達として本物の富士山へ33回登山したことをいう。今だって33回も登るのは大変だ。先達様はえらかった。



## ■長崎富士

我々の間では有名な「文寿整骨院」のすぐ前の公園にこの富士塚がある。ふつうはどこかの神社やお寺の境内に塚が築かれているのだが、ここは管理する講がないので、区の管理する公園の一角におかれている。しかし重要文化財なので放っておくことはできず、とりあえず金網を張って立ち入り禁止にしてある。山開きといっても、登山する方法はないので、金網の外側から眺めるしかない。



高さは8メートル、直径は21メートルだから、江古田のものよりもちょっと小さいだけだ。建設当時の様子がよく残っているので、重文になったという。昔の富士塚の規模はほぼこんなものだったのだろう。

立派な鳥居があり、富士塚の頂上には一応コノハナサクヤ姫を奉る富士浅間神社があるという。社殿や拝殿はどこにもみあたらない。

この富士塚は長崎村の「月三講」の人々によって作られたと説明版には書いてある。たくさんある石碑の中に、大先達・篠安太郎の名前が見える。椎名町の元講と書いてあるから篠一族はこの辺りにも勢力を広げていたのだろう。その碑には、富士に26回、中道八海九度とある。これは富士山のお中道、ふもとの忍野八海のことだ。石碑の文字を眺めるのはなかなかおもしろいので、みなさんぜひ写真をとっておいて、説明してください。

## ■長崎

西武線に東長崎という駅がある。町名は東長崎、南長崎という名前だ。九州の長崎の人が移住してきたのかと思ったが、そうではなく徳川家康が来る前からあった古い名前らしい。もともとは鎌倉時代、伊豆の国長崎の人たちがここに住んだらしい。椎名町駅前には長崎神社があり、長崎小学校などなど豊島区の中でも古い地名だ。



## ■池袋 氷川神社

「不思議な不思議な池袋、東に西武で西東武」の歌のように、池袋駅の西武デパート側は東池袋、東武デパート側は西池袋である。池袋というのは駅からちょっと離れており、池袋本町というのはさらに離れて、北池袋と下板橋の間になる。これから行く氷川神社は池袋本町にあるので、池袋からはかなり歩かなければならない。



池袋駅から SEKI 根さん推奨の貼り薬「糾励根」のビルの前をとおり平和通を抜けて川越街道を渡り、板橋宿に向かい古い道を行くと、氷川神社にでる。この辺り一帯の鎮守様でけっこう盛大なお祭りが催される。ちょうど「夏越（なごし）の大祓え」の最中で、正面には写真のような茅の輪くぐりがしつらえてある。六月最後の日に、半年の間に身体にたまった罪や穢れを払ってもらうために茅の輪をくぐるという神事である。今はたいていの神社で行われている。真ん中から入って左へ回り、また中心へ戻り、中心から入り今度は右に曲がりまた中央へ戻り、又中央から左の方へ円を描くように回る。∞の字を描くように回り、最後にそのまま拝殿に向かってお参りすることになっている。

「みなづきの 夏越の祓 する人は 千とせのいのち のぶといふなり」

「風そよぐ 奈良の小川の 夕暮れは 禊ぞ夏の しるしなりけり」

## ■池袋富士

<富士塚の説明文から>

富士塚は、さまざまな理由から富士登山ができない人たちも、これに登れば富士山に登ったのと同じ霊験が得られるとして、江戸時代後期以降、東京都域および近隣地域に各富士講集団を単位として築造されたものである。高さ約五メートル、東西幅約十二メートル、南北幅約十八メートルを測り、全山がボク石で覆われている。登山道は正面部分に雷光形に設けられており、その道筋ははっきり確認できる。

この池袋富士塚は、明治四五年（1912）六月に池袋 月三十七夜元講によって築かれたものである。塚内に造立された講碑から、歴代先達の名前や近隣の富士講集団とのつきあ



いの様子が知られる。一般に、富士塚の石造物は、頂上に奥宮、中腹に向かって右には小御獄社をあらわす石祠、中腹向かって左には烏帽子岩を配するのを基本としている。池袋富士塚の石造物は、こうした特徴を備えているほか、経が岳（日蓮ゆかりの霊地）を示す題目碑、合目石、講碑、教祖角行像、一对の天狗像、さらには胎内が配置されており、充実した石造物群を構成している。



豊島区に残された数少ない富士塚の一つとして、また池袋本町地区に展開した民間信仰を考えていくうえでも貴重なことから、平成十年六月に東京都豊島区指定史跡となり、保存がはかられている。〈平成十一年三月 東京都豊島区教育委員会〉

### ■月三十七夜講

三十七夜というのは何だろう。二十三夜なら分かるが、昔だって一月は三十日までだったはずだ。どなたかに聞いてみなければいけない。上の石碑のマークは「月三」と読めるのだが……

大先達にも元祖があるのだ。本家もあるのかなあ？

### ■池袋富士 <03年、山開きの日のブログに書いたものです>

右の写真は池袋富士の頂上である。ふだんは囲いにカギがかかかっており、入ることはできない。昔は子どもが登って遊んでいたようだが、今は文化財保護、子どもの安全上から、まあしかたがないことかもしれない。

この富士さんは東上線北池袋から近い氷川神社にある。板橋には氷川神社が多くある。一応我が家も氏子になっている板橋仲宿の氷川神社にも小さな富士塚（榛名さんとの説もあり）がある。池袋富士は6月30日と7月1日の山開きの日には開放され、お山に登ることができる。ここも我が家に近いので、毎年お富士さんに登りに行くが、今年はこの日に合わせて高野山からやって来たというお坊さんと一緒になった。この方は長い時間、富士塚の頂上でお経を上げていた。氷川神社にある富士塚にお坊さんが参ることにちょっと違和感をもったが、もともと日本の宗教は神仏混淆だった。とくに密教系の寺院では山岳修験が盛んであり、先日お参りした京都の醍醐寺でも、熊野奥駈け修行は重要な行事とされている。

富士講の創始者は長谷川角行という人で、富士山の人穴で永禄元年（1558）に、四寸角の上に爪先立って千日間の立ち行の末に悟りを開いたとされる。さらに富士登山百数十回、断食三百日など数々の難行苦行を行い 106 歳



で人穴で入寂したと伝えられている。人穴は富士の朝霧高原にある風穴の一つである。

### ■※ちなみに 「熊野奥駈け」

吉野から熊野へと続く大峰山系を縦走することを「大峰奥駈け」という。奥駈け道には「七十五靡（なびき）」といわれる行場が設けられている。靡の一番は熊野本宮の証誠殿で、熊野本宮が大峰奥駈けの出発点ということになる。昔はここに山伏の宿坊が建ち並んでいた。

熊野奥駈けは天台宗の園城寺聖護院系（本山派）が先に始めており、熊野から吉野に向かって七十五靡で行をした。このコースを順峰（じゅんぶ）という。その後真言宗の醍醐寺三宝院系（当山派）の山伏は逆コースで靡をたどった。それを逆峰（ぎゃくぶ）とよんだ。現在では吉野から熊野を目指す逆峯が大峰奥駈けの一般的なやり方になっている。もともとは役行者のひらいた熊野修験道の道だったが、紀州藩の宗教政策によって熊野三山は神仏混淆していき、今の熊野は神社の地になっている。

十条富士 今日山開き、縁日が開かれる。子どもたちはこの日を楽しみに！

### ■十条富士 縁日

東京のお富士さんといったら、ここが一番人気で、縁日は脇の道路はすべて閉鎖され、屋台はズラーと並び、埼京線の線路をこえて十条銀座まで続く。大勢の浴衣姿の女の子が屋台を眺めて回っている。一番目立つのは選挙のたすきみたいなのをしたお母さんたち、たすきにはナントカ中学PTAと書いてある。お母さんたちの活躍の場だ。夜までにぎやかな明かりが輝いていた。日本の夏、お富士さへんって感じだ。



富士塚を文化遺産として見るのもいいのだが、現在に生きている「お富士さん」として地元の人々が楽しんでいるのはすばらしい。昔は何とかの縁日と称して、子ども達は夜遅くまで遊んでいい日になっていた。きっと何の縁日かは分かっていないんだろうが、みんなで楽しむ日という思い出は残るだろう。私は今から35年ほど前、このお富士さんの近くに住んでいた。篠原演芸館もすぐそばにある下町情緒を残したい町だ。当時こんな縁日はどこにでもあると思っていたが、富士講の山開きで、これだけの人出があるのは、他にはほとんどない。

たくさん屋台が並ぶ。きっと昔は寅さんもこんなところで、「見上げたもんだよ屋根やのふんどし・・・」などと商売をしていたのだろう。

## ■十条富士

JR埼京線十条駅、京浜東北線東十条からも近く、昔の岩槻街道にそった崖の上に立っている。東十条方面から見上げたらものすごい高さだろうが、道路面からは六メートルほどの高さ。登りやすいように階段が付けられているが、もともとぐるりとまわる登山道があった。今も下りは横の下山道を降る。山開きの時にはものすごい人が上り下りするので、コンクリート製階段はしかたがない。



この富士塚はもともと大六天神社があった場所だという。その前は古墳だったのでないかとの説もあるが、詳細は不明。富士塚を作ったの十条富士神社の伊藤元講で、この講が毎年6月30日・7月1日に大祭を執り行っている。参詣者は、頂上の石祠(せきし)を参拝する前に線香を焚く。これは富士講の参拝の形式だという。

石碑は本郷の富士神社にあるのと同じように毒々しい赤色で染めてあるが、これはどんな意味があるのだろうか。石造物が、30数基あり、銘文によれば天保11年(1840)10月には富士塚として利用されていたことがわかる。

鳥居や頂上の石祠など16基は明治14年(1881)に造立されている。この年は、富士講中興の祖といわれた食行身禄(じきぎょうみろく)の150回忌に当る。この年伊藤元講を中心に塚の整備が行われたようだ。

## ■七富士巡り

七福神めぐりと同じように都内「七富士めぐり」というのがあるそうだ。だれが決めたのかよく分からないが、一応あげておくと以下のような。下町の富士山が一つもないのが不満なのだが・・・、品川富士、千駄ヶ谷富士、下谷坂本富士、江古田富士、十条富士、音羽富士、長崎富士だそうだ。

昨年駒込の富士神社で出会った富士巡りの講の方々は、千住宮元富士からやって来たとの話だった。いくつもの七富士巡りを作った方がいい。

## ■麦わら蛇

お富士さんの縁日当日、境内で売られているのが縁起ものの「麦わら蛇」。単に蛇(じゃ)とも呼ばれ、もともと駒込の富士神社境内で江戸時代から売られていた。富士神社は竜神信仰と関係が深く、十条の富士神社でも昔は「雨乞い」の儀式が行われていた。夏に日照りが続くと、村人たちが富士神社に集まり、麦わらで数メートルの大蛇を作り、若い衆がそれを担いで、村中を練り歩き、お富士さんのご神木に大蛇を巻きつけて雨が降るように祈願した。



田端富士 入り口にある赤紙仁王様がなかなかいい。

### ■赤紙仁王

J R線田端駅は崖の下にある。改札をでて東台橋をくぐって南に下がり、最初の信号を右手に曲がると、東覚寺の不動堂前に奇妙な赤い柱がある。赤い紙がびっしりと貼られた仁王様だという。中身が仁王様なのかお地蔵様なのか全く分からない。

昔からの民間の信仰はおもしろい。身体の悪いところに赤い紙をはってお願ひすればびったりと治るのだそうだ。みなさん身体の至る所が悪いようで、隙間なくびっしりと貼られている。前回見たしぼり地蔵さまも同じような信仰だった。後樂園の近くにあるこんにやく閻魔様にある塩地蔵もやはり同じで、体中に塩がべったりくっつけられて形も見えなくなっていた。医療の乏しかった昔のことではなく、科学万能の今の時代こんなにも盛んなのは、何か心の支えが欲しいのだ。精神的なストレスが多い時代を象徴しているできごとなのだろう。



### ■田端富士

赤紙仁王さまの脇に田端八幡神社の参道がある。御輿を入れる建物を見ながら奥にはいると社殿に向かう階段の右手に小さな階段がある。この上に田端富士三峯講が奉祀する富士浅間社と三峰社がある。富士浅間社では毎年二月二十日に「富士講の初拝み」として祭事が行われている。7月1日の山開きには何の行事もないようだ。



ここの富士さんにも何回か来ているのだが、めぼしいエピソードはない。いくつかの調査はなされているらしいので、調べてみたい。

調査報告書は 北区教育委員会『田端富士三峰講調査報告書』（文化財研究紀要別冊第九集、東京都北区教育委員会生涯教育部社会教育課、1996

07年6月30日、のお富士さん巡りはこれで終了。あす7月1日も連続で富士山巡りがありますので、よろしく。浅草雷門前10:00分集合です。本日も行くことができなかった小野照崎神社の下谷坂本富士にも行くつもりです。